

ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ→4種混合ワクチン（IPV-DPT）

日常の診療で百日咳以外の頻度は低いのですがどれも感染すると非常に危険な病気です。ワクチン（4種混合 IPV-DPT）が非常に効果的です。生後3か月になったら必ず受けてください。

ジフテリア

ジフテリア菌による感染症で2~5日の潜伏期を経て発熱、咽頭痛、嚥下痛などの症状で発症します。喉頭ジフテリアになると声がかれて犬の鳴き声のような咳が出て呼吸困難になり、気道閉塞で命を落とす危険性があります。心筋に影響があることもあります。ワクチンのおかげでほとんど見られなくなった病気ですがアジア地域では流行がみられることもあるので注意が必要です。

百日咳

百日咳は軽い風邪症状から始まりその後激しい発作性の咳がみられます。ケンケンとした咳が連続し、その後息を吸うときにヒューっという特徴的な音が繰り返されます。無治療だと症状は数週間~数か月で徐々に軽快していきませんが、6か月未満でかかると重症化しやすく命に関わることもあります。

上の4つの病気のうち日常診療でも時々見られる病気です。

成人からの感染も多いので“咳が何週間も続くな”という時は、ご両親も内科を受診してください。

破傷風

破傷風は、破傷風菌が産生する毒素のひとつである神経毒素（破傷風毒素）により強直性痙攣をひき起こす感染症です。破傷風菌は土壌中に広く常在し、傷口から体内に侵入し破傷風毒素を産生します。潜伏期間（3~21日）の後に局所（痙攣、開口障害、嚥下困難など）から始まり、全身（呼吸困難や後弓反張など）に移行し、重篤な患者では呼吸筋の麻痺により窒息死することがあります。

現在もワクチン未接種世代（1968年の定期接種開始以前）を中心に年間100人以上の患者発生があります。

ポリオ

ポリオウイルスの感染によって四肢の麻痺が起こる病気です。90%は全く無症状の不顕性感染で5%が発熱や咽頭痛を起こし、1%が髄膜炎を起こします。麻痺を起こすのは感染者の0.1～1%ぐらいです。

2012年8月までは定期接種として生ワクチン（口から飲むタイプ）が使用されており、まれに（70万人に1人くらい）ワクチンウイルスによる麻痺が起こっていました。2012年9月から、日本でも欧米と同様に小児まひ（ポリオ）を発病させるおそれがない不活化ポリオワクチン（IPV）に切り替わりました。現在は4種混合ワクチン（DPT-IPV）として組み込まれています。